

環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	調布市環境モデル都市提案書	
提案団体	東京都調布市	人口：21万7千人 (平成20年4月1日現在)
担当者名及び 連絡先	担当者の所属 調布市環境部環境政策課 氏名 長里，高木，倉林 電話番号 / 042-481-7086 ファックス番号 / 042-481-7550 メールアドレス kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp	
1 全体構想		
1-1 環境モデル都市としての位置づけ		
<p>調布市は、近代的な都市空間の中に、国分寺崖線に由来する豊かな湧水や多摩川水系などの身近な水辺環境及び農地、雑木林、寺社林、屋敷林などの緑地といった多くの自然環境を残している。この自然とのふれあいが容易な調布市においては、様々な環境にかかわる活動が盛んに行われており、都市空間と自然空間が共存した持続可能な地域社会の実現に向けた、優れたモデルとなる可能性のある地域でもある。</p> <p>調布市では地球温暖化対策と合わせて、地元企業や商店街の活性化や、緑の保全、地元文化の継承等を行う。具体的には クリーンエネルギーの活用と普及 街づくり事業と連携した温暖化防止事業の実施 自然エネルギーを活用する基盤整備 市民、事業者への地球温暖化防止意識の啓発 市内全公共施設への環境マネジメントシステムの導入と省エネ機器導入、壁面、屋上緑化の導入計画 市内カーボンオフセット事業の実施を行う。</p>		
1-2 現状分析		
1-2- 温室効果ガス の排出実態等	<p>平成14年度、調布市統計書等を元に、エネルギー消費量の現状を把握し、地域省エネルギービジョンを策定した。</p> <p>平成12年度のエネルギー消費量 合計 10057 (TJ) 電力 3631 (TJ), 石油等 4275 (TJ), ガス等 2151 (TJ) 部門別エネルギー消費内訳 産業 14%, 民生家庭 31%, 民生業務 16%, 運輸 39%。</p> <p>* 民生家庭部門の排出の大きい市における削減の先導的な取り組みであり、家庭への啓発、普及を行うことにより、大幅な温室効果ガス削減が期待できる。</p> <p>具体的な排出削減 平成12年度から調布市庁舎、クリーンセンターで ISO14001 に取り組み、平成18年度は平成11年度比でガス 89.2%減、水道 24%減、ガソリン 19.4%減、(電気 3.49%増：ESCO事業導入により空調設備を電気式に変更したため微増)、の効果があり、CO2換算では288603kgの削減となった。</p> <p>平成15年3月調布市地域温暖化対策実行計画策定 市の事務事業全般での温室効果ガス削減を目指している。 市の事務事業から排出される温室効果ガスの総量は平成18年度：13159t-CO2である。</p> <p>調布市は区部と隣接しているが、国分寺崖線とそれが蓄えた湧き水、またそれらを活用した田んぼが残っている。</p> <p>市内の緑被率は33%であり、近隣市と比較しても高い。緑地が吸収できる温室効果ガスは80年生杉人工林1haあたり約CO2:170t吸収すると換算すると、120700t-CO2と推定される。</p>	

1-2- 関係する既存 の行政計画の 評価	計画の名称及び策定期間	評価
	調布市基本計画（平成19年度）	市の施設におけるCO2の削減（H15年比H24年までに10%削減）
	調布市環境基本計画（平成16年度）	市全体のエネルギー消費量のH12年比2.1%削減
	調布市地球温暖化対策実行計画 （平成14年度）	市の施設におけるCO2の削減（H15年比H21年までに6%削減）
1-3削減目標等		
1-3- 削減目標	2050年に向けた長期温室効果ガス削減目標：2000年に比較して50%削減 2020年に向けた中期温室効果ガス削減目標：2000年に比較して30%削減	
1-3- 削減目標の達成 についての考 え方	地域特性を生かし、市民、事業者一体となった地球温暖化地域推進計画の策定と、計画推進を行う。	
	取組み方針	削減の程度及びその見込みの根拠
	クリーンエネルギーの活用と普及 （例）天然ガススタンドの誘致、天然ガス車の普及活動）	通常車比CO2：20%減・平成21年度中に 天然ガススタンド誘致（庁内車130台 市内登録車数6万台に普及）
	街づくり事業と連携した温暖化防止事業の実施 （例）京王線地下化に合わせた、大幅なCO2削減実施とモデル 地区の指定 （例）新ごみ処理施設建設に合わせた、大幅なCO2削減実施 （例）自転車を活用した街づくり （例）深大寺エコミュージアム計画による、地元の活性化と文 化、環境意識の向上 （例）深大寺周辺のTDM計画策定	京王線地下化：CO2 4割削減目標 新ごみ処理施設建設：CO2 4割削減目標 自転車活用：削減数値は不明
	自然エネルギーを活用する基盤整備 （例）太陽光発電街路灯の設置	市設街路灯：13700本× 65kg-CO2=890500kg-CO2削減
	市民、事業者への地球温暖化防止意識の啓発 （例）市内企業の人気キャラクターとコラボレーションしたマ イバックの作成・販売・普及。 （例）マイバックを通じた市内企業や市内商店街の活性化、深 大寺周辺里山保全（（仮称）「田んぼ公園」）を目標としたマイ バック活用。 （例）家庭系可燃ごみ減量の更なる啓発 （例）ごみカレンダーへの省エネ事項を合わせて掲載 （例）地球環境保全基金の効果的な活用 （例）環境学習センターにおける、市民が導入できる高効率機 器等紹介設備の紹介	家庭系可燃ごみ5%削減目標：生ゴミで 換算すると1365tごみ削減、原油5575 本分削減
	市内全公共施設への環境マネジメントシステムの導入、省エネ改修及 び省エネ機器導入計画の策定 （例）職員から始まる環境意識の底上げ （例）省エネ機器導入計画策定 （例）壁面、屋上緑化の導入によるヒートアイランド対策実施	平成18年度288603kg-CO2削減（平成11 年度比）：本庁舎、クリーンセンターの2 施設。全公共施設では、2020年度までに CO2：30%削減目標
	市内カーボンオフセット事業の実施 （例）深大寺周辺の里山保全や国分寺崖線保全と合わせた、市 内カーボンオフセット計画の策定	平成21年度地球温暖化対策地域推進計画 において具体策検討予定
1-3- フォローアッ プの方法	市内全公共施設については、既に環境情報システムにより、温室効果ガス排出状況を把握している。市 内全域の温室効果ガス排出状況については、エネルギー事業者の協力を得て把握に努める。計画の推進状 況把握については毎年度行い、計画の見直しについては5年に一度行う。	
1-4地域の活力の創出等		
計画策定・推進に伴い、地元企業や商店街の協力を必要とすることから、地域の活力の創出が期待できる。また深大寺周辺 の里山保全については調布市基本計画の重点施策でありエコミュージアム計画もあることから、地球温暖化問題への対応に とどまらず、地元の活性化や市民の憩いの場の創出が確保できる。		

2 取組内容（ 取組内容の整理にあたっては「 1 - 3 - 削減目標の達成についての考え方」に記載された取組内容の整理の枠組みを基礎とした柱に沿って取組を分類すること。）

2- 1 市域におけるクリーンエネルギー（ハード面）の普及

2- 1 - 取組方針

- ・ クリーンエネルギーの活用と普及（天然ガススタンドの誘致と車両の普及）
- ・ 街づくり事業と連携した温暖化防止事業の実施（建物の仕様，電力の創出）
- ・ 自然エネルギーを活用する基盤整備

2-1- 5 年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
(a)天然ガススタンドの誘致，クリーンエネルギー自動車の普及 天然ガススタンドを調布市内に設置し，クリーンエネルギー自動車の普及を目指す。	調布市（平成 21 年度中）	市委託ごみ収集車の変更の場合：年間 104025kg-CO2 削減 庁用全車両の変更の場合：68370kg-CO2 削減
(b)調布市連続立体交差事業及び中心市街地活性化事業推進プロジェクトの推進及び計画の実行	調布市内京王線沿線駅付近	地球温暖化対策地域推進計画にてフォローアップ
(c)新ごみ処理施設計画に合わせた，CO2 の削減計画策定	調布市ごみ対策課，ふじみ衛生組合	調布市基本計画推進プログラムにてフォローアップ
(d)自転車を活用した街づくりの検討実施	調布市道路課	
(e)深大寺エコミュージアム及び深大寺周辺里山地域の保全事業の推進	調布市環境政策課，郷土博物館	調布市基本計画推進プログラムにてフォローアップ
(f)深大寺周辺の TDM 実現についての検討実施	調布市環境政策課，街づくり推進課	
(g)太陽光発電を取り入れた街路灯導入計画策定及び順次導入	調布市道路課	市設街路灯市設街路灯 13700 本×65kg-CO2 =890500kg-CO2 削減

2-1- 課題

実施にあたり，他部署との調整や地元住民の理解を得ることが必要である。

2-2．公共施設における取組み		
2-2- ．取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・市内全公共施設への環境マネジメントシステムの導入，省エネ改修及び省エネ機器導入計画の策定 ・公共施設での壁面・屋上緑化推進後，民間施設への普及・啓発・助成 		
2-2- ．5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)市内全公共施設への環境マネジメントシステムの導入 現在本庁舎及びクリーンセンターにおいて実施している，ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの運用・管理を，全公共施設に広げ，市役所から発生するCO2削減に取り組む。	調布市環境政策課を事務局とした，全職員	環境マネジメントシステムの運用・管理 平成18年度288603kg-CO2削減（平成11年度比）：本庁舎，クリーンセンターの2施設。全公共施設では，2020年度までにCO2：30%削減目標
(b)省エネ改修計画策定及び実施 平成14年に作成した，調布市地域省エネルギービジョンや調布市地域省エネルギービジョン事業化フィージビリティスタディ調査に基づき，省エネ改修を実施していく。	調布市環境政策課，施設管理各課	調布市地域省エネルギービジョン事業化フィージビリティスタディ調査より（原油削減割合：たづくり9.3% グリーンホール19.5% ちょうふの里13.0% 知的障害者援護施設9.8% 市庁舎13.1% 総合体育館10.4%）たづくりと市庁舎はESCO導入済
(c)省エネ機器導入計画策定及び実施	調布市環境政策課，施設管理各課	地域推進計画にてフォローアップ
(d)公共施設での壁面・屋上緑化推進 公立小学校，中学校及び公共施設において，壁面・屋上緑化を実施。市民のモデルとなる。	調布市環境政策課，緑と公園課，施設管理各課及び教育委員会	公共施設整備計画との連携
2-2- 課題		
<p>職員の意識高揚のために，マネジメントシステムのマンネリ化を防ぐ，新たな取り組みが必要となる。</p> <p>改修工事や新たな機器導入については，補助金等の活用が必要となる。</p>		

2-3．市民に対する地球温暖化対策普及・啓発		
2-3- 取組方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・市民，事業者への地球温暖化防止意識の啓発 ・市内カーボンオフセット事業の実施 		
2-3- 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a)市内企業の人気キャラクターとコラボレーションしたマイバックの作成。 市内商店街等において販売を行い，市内企業と商店街の活性化につなげる。 また売上金については基金を積み立て，深大寺周辺里山を保全し（仮）田んぼ公園を作る。	調布市環境政策課，ごみ対策課，市内企業，商店街	調布市環境基本計画及び環境情報システムにてフォローアップ
(b)家庭系可燃ごみ減量の更なる啓発。市民一人ひとりの可燃ごみ排出量を更に削減する。マイバックの活用・普及も進める。	調布市ごみ対策課	ごみ管理基本計画による管理及びフォローアップ
(c)全戸配布している調布市ごみカレンダーに，家庭で取組める省エネ行動を合わせて掲載し，ごみ削減と省エネを推進していく。	調布市ごみ対策課，環境政策課	調布市環境基本計画及び環境情報システムにてフォローアップ
(d)地域集団回収による収益を地球環境保全基金に積み立てているが，基金の用途を深大寺周辺の里山保全に使用している等，目で見てわかりやすい仕組みを作り，市民の更なるごみ資源化を図る。	調布市ごみ対策課，環境政策課	ごみ管理基本計画及び環境情報システムにてフォローアップ
(e)あゆみ学園の跡地を利用し，環境学習センターを立ち上げ，多摩川水辺の楽校の実施や，市民が導入できる高効率機器等の設備紹介を行う。環境学習センターを市民が利用できるようにし，市民の交流や環境を通じた地域活性化を図る。	調布市環境政策課，市民団体等	調布市基本計画推進プログラムにてフォローアップ
(f) 家庭やオフィス等で排出したCO ₂ 量を金額に換算し，調布市内の緑や畑，田んぼといった里山が残る，深大寺・佐須地区保全事業を推進するための資金とする事業を立ち上げる。	調布市環境政策課	調布市環境基本計画及び環境情報システムによるフォローアップ
2-3-- 課題		
無関心層をどう取り込むか。		

3．平成 20 年度中に行う事業の内容		
取組の内容		主体・時期
地球温暖化対策地域推進計画策定に向け、市内企業に対し地球温暖化対策についての実施事項、検討事項、カーボンオフセットについての考え等のアンケート調査を実施する。		調布市環境政策課(6月以降から年度内)
市内全公共施設における環境マネジメントシステムを作成し、一部施設において試行的に実施する。		調布市環境政策課(4月から年度内)
毎月の広報誌にチーム・マイナス6%のロゴを掲載し、市民に対して地球温暖化防止についての啓発を行う。		市(平成20年3月からキャンペーン終了まで)
環境月間にあわせて地球温暖化防止等をテーマに、楽しみながらエコ体験ができる「調布市環境フェア」を開催し、省エネ商品の紹介、活動の紹介等を行う。		市(6月7日)
地元由来の人気キャラクターとのコラボレーションで作成したマイバッグを活用し、地球温暖化防止と緑の保全基金の積み増しを行う。		調布市、市内企業、市民 6月から年度内)
市内公共施設において、壁面緑化を試行的に実施し、効果等を検証する。		調布市環境政策課、緑と公園課及び調布市教育委員会 (4月から年度内)
4．取組体制等		
行政機関内の連携体制	環境政策課を中心とし、関連部署と連携を図るための協議会等を発足する。 東京都や環境省の動向を見ながら、必要があれば連携を図る。 他自治体の動向を把握する。	
地域住民等との連携体制	調布市協働推進課(自治会や地区協議会といった地元とのつながりが深い課)を通じ、協力体制を作る。 また、既存の地域団体や新たな地域住民との連携体制を作りながら、各種計画の策定、計画の推進を図る。	
大学、地元企業等の知的資源の活用	既に温暖化防止対策を実施している大学もあり、協力協定も結んでので、地球温暖化対策地域推進計画策定時及び計画推進時には、会議の出席や意見の聴取等を行う。 地元企業や商店街についても、地球温暖化防止に向けた取り組みの推進に協力を依頼する。	

5年以内に具体化する予定の取組については、その実施箇所を一覧できる地図を添付すること
必要に応じて適宜、行や欄の追加、注記・例示の削除を行ってよいが、様式1、2の全体の枚数は10枚程度とすること。また、様式に入力する文字は10.5ポイント以上とすること。

(調布市)環境モデル都市提案書(様式2)

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

調布市は、近代的な都市空間の中に、国分寺崖線に由来する豊かな湧水や多摩川水系などの身近な水辺環境及び農地、雑木林、寺社林、屋敷林などの緑地といった多くの自然環境を残している。この自然とのふれあいが容易な調布市においては、様々な環境にかかわる活動が盛んに行われており、都市空間と自然空間が共存した持続可能な地域社会の実現に向けた、優れたモデルとなる可能性のある地域でもある。調布市では地球温暖化対策と合わせて、地元企業や商店街の活性化や、緑の保全、地元文化の継承等を行う。具体的には クリーンエネルギーの活用と普及 街づくり事業と連携した温暖化防止事業の実施 自然エネルギーを活用する基盤整備 市民、事業者への地球温暖化防止意識の啓発 市内全公共施設への環境マネジメントシステムの導入と省エネ機器導入、壁面、屋上緑化の導入計画 市内カーボンオフセット事業の実施を行う。

1-2 現状分析

平成14年度、調布市統計書等を元に、エネルギー消費量の現状を把握し、地域省エネルギービジョンを策定した。

平成12年度のエネルギー消費量 合計10057(TJ)
電力3631(TJ)、石油等4275(TJ)、ガス等2151(TJ)

部門別エネルギー消費内訳

産業14%、民生家庭31%、民生業務16%、運輸39%。

民生家庭部門の排出の大きい市における削減の先導的な取組みであり、家庭への啓発、普及を行うことにより、大幅な温室効果ガス削減が期待できる。

具体的な排出削減

平成12年度から調布市庁舎、グリーンセンターでISO14001に取組み、平成18年度は平成11年度比で電気3.49%増、ガス89.2%減、水道24%減、ガソリン19.4%減、(電気3.49%増:ESCO事業導入により空調設備を電気式に変更したため微増)の効果があり、CO2換算では288603kgの削減となった。

平成15年3月調布市地域温暖化対策実行計画策定

市の事務事業全般での温室効果ガス削減を目指している。

市の事務事業から排出される温室効果ガスの総量は平成18年度:13159t-CO2である。

区部と隣接しているが、国分寺崖線とそれが蓄えた湧き水、またそれらを活用した田んぼが残っている。

市内の緑被率は33%であり、近隣市と比較しても高い。緑地が吸収できる温室効果ガスは80年生杉人工林1haあたり約CO2170t吸収すると換算すると、120700tと推定される。

1-3 削減目標等

2050年に向けた長期温室効果ガス削減目標:2000年に比較して50%削減

2020年に向けた中期温室効果ガス削減目標:2000年に比較して30%削減

取組み方針

クリーンエネルギーの活用と普及(天然ガススタンドの誘致)

街づくり事業と連携した温暖化防止事業の実施

自然エネルギーを活用する基盤整備

市民、事業者への地球温暖化防止意識の啓発

市内全公共施設への環境マネジメントシステムの導入、省エネ改修、省エネ機器導入、壁面、屋上緑化の導入計画

市内カーボンオフセット事業の実施

フォローアップの方法

市内全公共施設については、既に環境情報システムにより、温室効果ガス排出状況を把握している。市内全域の温室効果ガス排出状況については、エネルギー事業者の協力を得て把握に努める。計画の推進状況把握については毎年度行い、計画の見直しについては5年に一度行う。

1-4 地域の活力の創出等

計画策定・推進に伴い、地元企業や商店街に協力を依頼することから、地域活力の創出が期待できる。また深大寺周辺の里山保全については調布市基本計画の重点施策でありエコミュージアム計画もあることから、地球温暖化問題への対応にとどまらず、地元の活性化や市民の憩いの場の創出が確保できる。

(調布市)環境モデル都市提案書(様式2)



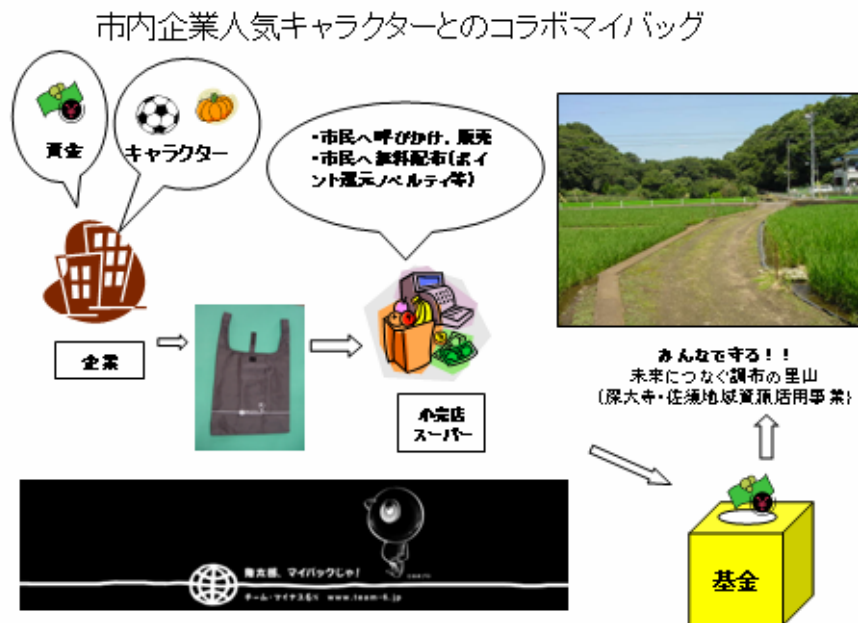
クリーンエネルギーの活用と普及



公共施設への環境マネジメントシステム導入、省エネ機器導入、壁面・屋上緑化導入



自然エネルギーを活用する基盤整備



街づくり事業と連携した温暖化防止事業の実施